

株式会社ケインズアイ

kintone 内の日報やプロセスデータを Power BI で可視化してマクロの業務把握を実現

ケインズアイグループは、多様化する現代の会計ニーズに対応できる会計、人事・労務サービスを提供しています。年間の相談件数が 10,000 件超え、170 名を超える税理士、社労士、行政書士などの士業スタッフが日々活動しています。

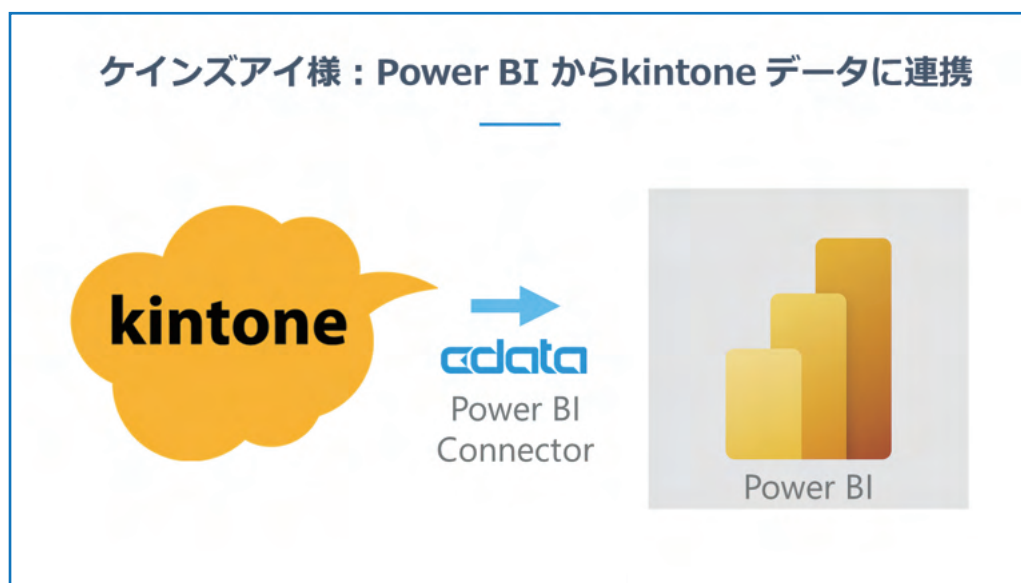
多くの社員の活動を kintone に日報や業務データとして記録していく中、全体を俯瞰した管理・分析のために BI ツールである Power BI を導入。Power BI がネイティブでサポートしていない kintone データを API プログラミングを行うことなく、CData Power BI Connector for kintone で連携を実現されました。

Challenges

- ・ kintone 上の日報や業務データの集計・分析
- ・ Power BI への kintone データの取り込み
- ・ kintone API に習熟していない非エンジニアでも使えるソリューション

Solutions

- ・ CData Power BI Connector for kintone で Power BI で kintone データをシームレスに利用
- ・ API プログラミングなしで常に kintone の最新のデータの分析を実現



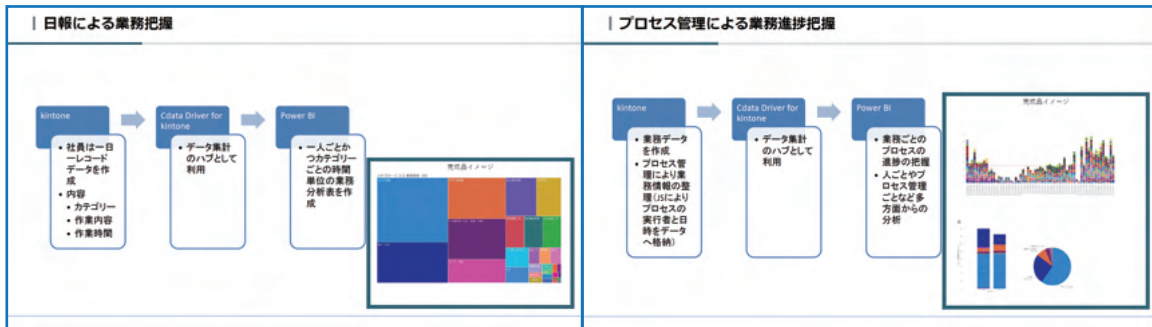
本件導入を進められたオペレーション本部 本部長 山本豊氏にお話を伺いました。

Q: 本プロジェクトの概要を教えてください。

山本氏：弊社は、社員 170 名で年間 10,000 件を超えるお客様からの会計、税務、人事労務、電子化など多様なご相談を受けています。それぞれの案件を Excel や部署内だけで管理することは難しく、国産のグループウェア・コラボレーションツールであるサイボウズ社の kintone を利用して、一元管理ができる体制を整えてきました。kintone は、社内の点々とした情報をクラウドにまとめられる点が素晴らしいのですが、全体としてオペレーションや事業がどのような状況にあるのかを把握するためにはデータの集計などが必要でした。そこで Power BI の導入を検討していました。

Q: Power BI で kintone データを扱う際のボトルネックは？

山本氏:Microsoft 社の Power BI は、大変使いやすいツールですが、国産 SaaS である kintone データをサポートしていません。kintone から CSV データを毎日エクスポートして Power BI にロードするというのも手間がかかってしまいます。kintone の REST API を扱うにはエンジニアが必要であり、新しいアプリの追加や既存アプリの改修もある中、毎回エンジニアに頼んでいては時間がかかりデータ取得のコストが上がってしまう懸念がありました。



Q: kintone Power BI Connector を採用されたポイントは？

山本氏：サイボウズ社のウェブページから kintone データを Power BI に連携できるコネクタがあると知り、検証を行いました。kintone のアカウント情報を入力するだけで、簡単に Power BI から最新の kintone データをロードして利用することができました。他には ETL/EAI ツールを使用するという方法もありましたが、プロセス情報の加工（プロセスの実行者と日時をデータに格納）などは JS でカスタマイズして kintone 上で行うことができるため、ミドルウェアを経由しないコネクタ形式を採用しました。

Q: 実際に CData Power BI Connector を使われた感想は？

山本氏：kintone は API を提供していますが、API の呼び出し、取得した JSON を分析できるようにするにはエンジニアが必要でしたが、CData の kintone Connector を使えば IT エンジニアではない社員でも簡単に kintone に接続して、最新のデータを Power BI に連携できる点が助かります。またサポートを CData の日本チームの方が日本語で行ってくれる点も安心感がありました。



株式会社ケインズアイ
 本社：千葉県千葉市
 設立：1998年4月

同社ウェブサイトより

CData は、米 CData Software, Inc. の登録商標です。他社製品名などは各社の商標です。